

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Factors associated with postpartum smoking relapse at early postpartum period of Japanese women in the Japan Environmental and Children's Study

和文タイトル:

日本人女性における産後早期再喫煙の関連要因

ユニットセンター(UC)等名:宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2023 DOI: 10.1265/ehpm.23-00059

筆頭著者名:穴井 茜

所属 UC 名:宮城ユニットセンター

目的:

本研究では、日本における、妊娠中に禁煙をした女性の産後1ヶ月での再喫煙状況及びその要因を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した母親のうち、データの揃っている93,851名を対象とした。妊娠初期、妊娠中期・後期、産後1ヶ月に得られた自記式質問票の情報をもとに産後1ヶ月における再喫煙状況を把握した。産後再喫煙に関連する要因について、ロジスティック回帰分析を用いて統計解析を行った。

結果:

解析の結果、妊娠判明時に喫煙をしていた母親のうち76.2%が妊娠中に禁煙し、そのうち5.7%が産後1ヶ月時点で喫煙を再開していた。産後早期の再喫煙と関連する要因としては、年齢(24歳以下, 35歳以上)、教育歴(12年以下)、出産歴(第2子以上)、授乳方法(人工乳)、妊娠中のパートナーの喫煙、禁煙前の喫煙本数(11本以上/日)、産後1ヶ月時点の飲酒、産後うつ(EPDSスコア9点以上)、里帰り(里帰り日数が産後14日未満)との関連が示唆された。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、先行研究同様にパートナーの喫煙状況と産後再喫煙との関連が示された。妊娠中にパートナーが喫煙していた場合、産後再喫煙との関連が見られたが、妊娠中にパートナーが禁煙した場合、産後再喫煙との関連は見られなかった。そのため、妊娠中は妊婦のみならずパートナーの禁煙が重要であると考えられる。本研究では、産後の母乳育児が産後再喫煙を予防することが示されたが、母乳育児が再喫煙を予防するのか、もしくは喫煙(再喫煙)をするために母乳育児をしなかったのか明らかではない。また、妊娠中及び産後の喫煙状況は生体指標ではなく、自記式質問票の回答に基づいた分類であることも本研究の限界点としてあげられる。

結論:

日本において、喫煙をする多くの女性が妊娠を機に禁煙をするが、一定数の女性が産後早期に喫煙を再開することが明らかとなった。産後早期の再喫煙要因としては、母乳育児及び、パートナーの喫煙が重要な関連因子であることが示された。